

ミラノ、至る所に息づくレオナルドの足跡

レオナルドは建築家であり、技術者であり、都市計画家でもありました。世界中で、これほど容易にレオナルドの存在を感じられる都市は他にありません。彼の芸術作品、素描、そして工学的な業績の数々は、ミラノの至る所で目にすることができます。ルネサンスの偉大な天才が刻んだ永劫に残る足跡が、街のあちこちに静かに息づいているのです。ミラノの街を歩けば、至る所で彼の遺産に出会うことができますでしょう。

ミラノは、レオナルドが芸術的、知的創造力の最盛期に、その天才性を刻みつける場として選んだルネサンスの都です。偉大な芸術家、建築家、技術者である彼は、15世紀後半から16世紀初頭にかけての20年間をミラノで過ごし、街にその足跡を刻みました。

レオナルド・ダ・ヴィンチは、世界で最も Google で検索されている芸術家ですが、彼を迎え入れ、そして人生で最も長く、最も創造的な時期を過ごす場所として彼が選んだ都市がミラノであることは、あまり知られていません。

ミラノの地で、彼はその創造的な天才性と万能才能を存分に開花させたのです。

レオナルドの主要な作品を見ることができる都市は他にもいくつかあります。しかし、それらの作品は通常、特定の博物館や美術館といった場所にまとめられています。

ミラノが特別なのは、街全体がまさしくレオナルドの存在に満ちていることです。彼の作品や、彼がこの地で過ごした時代の痕跡を、街の至るところで目にすることができます。

レオナルド・ダ・ヴィンチの思考や彼の多彩な才能を真に理解するために、これらのスポットをぜひ「一生に一度は訪れたい場所リスト」に加えてください。

- **レオナルド・ダ・ヴィンチ像**

高級店や書店が軒を連ね、スカラ座へと続く鉄とガラスのアーケード「ガレリア・ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世」の突き当り、市庁舎（マリーノ宮）の正面にレオナルドと彼を囲む4人の高弟たちの像から成る記念碑があります。

- **アンブロジアーナ図書館**

スカラ広場からサンタ・マルゲリータ通りを進み、かつて中世の街の中心地であったメルカンティ広場を抜け、オレフィチ通りの向こう側へ渡ると、アンブロジアーナ図書館に行き着きます。そこには、レオナルドの不朽の天才性を今に伝える素描や手記の最大級のコレクション、アトランティコ手稿が収蔵されています。ミラノの活気あふれる中心地にありながら、絵画館（ティツィアーノやカラヴァッジョによるルネサンス期の絵画を所蔵）が併設されたこの由緒ある図書館は、静寂に包まれた憩いの場となっています。

- **スフォルツェスコ城**

スフォルツァ城の内部へ足を踏み入れましょう。この公爵の邸宅は、当時完成したばかりで、まだ装飾や調度が整えられていませんでしたが、ここにレオナルドが「アッセの間（Sala delle Asse）」を制作しました。

- アッセの間（Sala delle Asse）

桑の木による見事なパーゴラが壁面に描かれ、葉や枝、そして「イル・モーロ（あさ黒い肌の男）」の異名で知られるルドヴィーコ・スフォルツァゆかりの紋章盾を支える金色の縄が複雑に絡み合いながら、全体の構図を形づけています。ちなみに、桑の木の実マルベリーと呼ばれます。

レオナルドと工房の弟子たちは、桑の木を木炭で下描きし、天井のヴォールト（アーチ状の天井）やルネット（半円形の壁面）の着彩に取りかかりましたが、1499年の夏、フランス軍がミラノに侵攻したため、作業は中断されました。レオナルドの作業の痕跡が学者たちによって再発見されたのは19世紀に入ってからで、1894年には、塗り重ねられた漆喰の層の下からこれらの絵画が見つかりました。

第二次世界大戦後、爆撃で甚大な被害を受けたスフォルツァ城は、全面的な修復が施されました。「アッセの間（Sala delle Asse）」の修復作業では、壁面の塗り直しと色の明度を上げることに重点が置かれました。その過程で大きな発見となったのが、岩肌の荒々しい地形に力強く根を張る桑の木を、オーカーの濃淡で描いた一画で、「モノクローム」と呼ばれ、学者たちがレオナルド自身の手によるものとみなしています。

- 絵画館：レオナルド派（レオナルデスキ）の作品

レオナルド派による絵画、彫刻、メダイヨンに加え、レオナルドの絵画や素描を鑑賞できるマルチメディア・ステーションが二か所設置されています。

没入型展示

レオナルドが制作した当時から近年の修復に至るまでの「アッセの間（Sala delle Asse）」の歴史を伝えるため、ロッケッタのパノラマの間には大型の没入型インスタレーションが設置されています。これは「アッセの間」の縮小レプリカであり、歴史的出来事を物語るとともに、レオナルドが構想した線の軌跡を映し出す映像が投影されています。

トリヴルツィオ手稿（Codex Trivulzianus）

レオナルドの「モレスキン」

スフォルツェスコ城に保管されているレオナルドの至宝の中には、「トリヴルツィオ手稿」と呼ばれる、彼の貴重な自筆の手記も含まれています。この手稿は極めて脆弱であるため、トリヴルツィアーナ図書館で常設展示することはできませんが、館内には来館者がデジタル映像として手稿を閲覧し、自由にページを繰ることのできるマルチメディア・ステーションが設置されています。

注：スフォルツェスコ城にはレオナルド・ダ・ヴィンチに関連する多くの文化的資料が収蔵されていますが、ミケランジェロの「ロンダニーニのピエタ（Pietà Rondanini）」など、ほかにも多くのみどころがあります。<https://www.yesmilano.it/esplora/itinerari/10-capolavori-mondiali-esposti-milano>）。また、単一のチケットで複数の博物館を訪れることも可能です（<https://www.milanocastello.it/i-musei/i-musei-del-castello-sforzesco>）

- **サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会**

スフォルツェスコ城を後にし、ガエ・アウレンティが設計したカドルナ駅を通り過ぎてマジェンタ通り（Corso Magenta）へ向かうと、ミラノにおけるレオナルド体験のクライマックスにたどり着きます。それこそが、ユダの宿命的な裏切りの直前にイエスと十二使徒が共にする晩餐の瞬間を描いた、人類史上最も有名な絵画の一つ「最後の晩餐」です。この傑作は、ユネスコ世界遺産に登録されているサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会の食堂の壁に描かれています。

- **レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館**

もしあなたがレオナルドのように科学に関心があるなら（彼はミラノの領主ルドヴィーコ・スフォルツァに送った自薦状の中で、自らを芸術家である前に、技術者や兵器発明家としてアピールしていました）、ぜひ「国立科学技術博物館（Museo Nazionale della Scienza e della Tecnologia）」（地下鉄 M2/M4 線サントンブロージョ駅）を訪れてください。特にお子様連れにはおすすめです。ヨーロッパ屈指の科学博物館の館内では、レオナルドの偉大な機械発明の実物大模型に加え、科学的創意工夫と技術の進歩の歴史全体を、楽しく夢中になれる展示を通して体験できます。

- **ナヴィリオ・グランデ**

ミラノの主要な運河であり、バー、レストラン、カフェ、アトリエ、書店、レコード店、アンティークショップなど、実に多彩な店が立ち並び、サブカルチャー的な雰囲気が漂う、街のナイトライフの中心地のひとつです。ナヴィリオ・グランデ沿いでは、深夜遅くまで賑やかな時間が流れています。 ナヴィリオ・

グランデはナヴィリオ・パヴェーゼと合流し、ミラノの古い港であり、船だまりでもあるティチネーゼ地区の中心地「ダルセナ（Darsena）」へと流れ込みます。水辺を望む屋内市場の屋台や若者向けのカフェが並び、華やかな光の中、岸壁には人々が腰を下ろしています。ミラノのバーテンダーが腕を振るう最高のアペリティーボ（食前酒）とともに、私たちの旅はここで締めくくりとなります。

- **ブレラ：コンカ・デッリンコロナータ（インコロナータの水門）**

<https://www.yesmilano.it/articoli/sliding-doors>